

にぼしだって、カタクチイワシ！

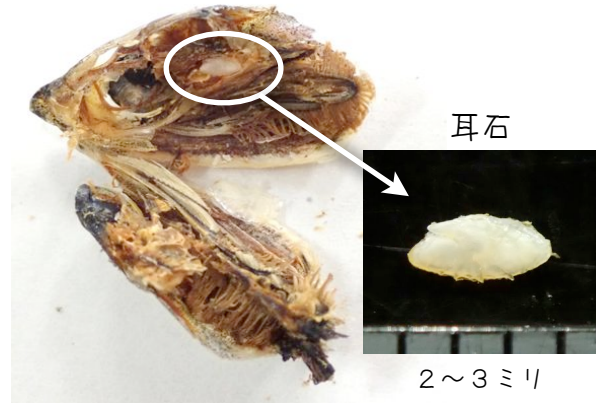
じせきひょうほん

～にぼし耳石標本をつくろう～



いしかり
砂丘の風
資料館

つゆ、みそ汁を作るときなど、ダシをとるのに欠かせない「にぼし」。でも、にぼし1本1本も、もとはカタクチイワシという1匹の魚。骨や肉、脳や内臓が、ちゃんが入っているのです。今日は、にぼしの頭を解剖（かいぼう）して、耳石（じせき）を取り出し、標本にしてみよう！



■材料・道具

- ・にぼし1本。大きめ（10cm以上）のもの
- ・ピンセット
- ・虫めがね
- ・木工用ボンド
- ・台紙（もう1枚のPDFをプリントする）
- ・フォトフレームなど

■作りかた

- ①にぼしの頭を背中側から手で半分を開く。
- ②耳石を探す。小さくて見えにくい場合は、虫めがねを使おう。
- ③耳石をピンセットで取り出す。
- ④耳石を台紙にボンドで貼りつける。
- ⑤にぼしの体も台紙に貼りつける。
- ⑥標本のデータを書く。
- ⑦フォトフレームなどに入れて、完成！

■注意！

- ・ピンセットの先は、とがっている！ ケガしないように。
- ・にぼしは食べもの。また、もとは1つの生命。大切に扱おう！

★解説

- ・にぼし（煮干）… 小魚を煮て、干したものだ。つゆ、みそ汁などのダシをとるのに使います。ほとん

どはカタクチイワシですが、アジやサバ、トビウオを使ったものもあります。

・カタクチイワシ…

ニシン目（もく）カタクチイワシ科の小魚。大きいもので体長15cmくらい。日本のまわりの海で、群れをつくって生活しています。口を大きくあけて、海水ごとプランクトンを食べます。

・耳石（じせき）…

魚の頭の中にある、バランス感覚をたもつための小さな石。左右に1つずつあります。

■もっと知りたいときは…

▼ホームページ

「煮干しの解剖資料室」（小林眞理子）

<http://www.geocities.jp/niboshi2005/index.html>

「魚の耳石」（福井県水産試験場）

<http://www.fklab.fukui.fukui.jp/ss/jiseki/uonojisekinituite.html>

▼資料館の学芸員に聞こう！

いしかり砂丘の風資料館の、学芸員（自然担当：志賀）に聞いてみよう！

場所：061-3372 石狩市弁天町30-4

電話／ファックス：0133-62-3711

メール：bunkazaih@city.ishikari.hokkaido.jp

ホームページ：

<http://www.city.ishikari.hokkaido.jp/museum/>